

フリースペース チャレンジ とくしま 芸術祭 2013

様々な表現活動を行っている人や、芸術にあこがれを持っている人たちに、ひろく活動発表の場を提供し、未来へ羽ばたく徳島発のアーティストを発見・支援しようという「フリースペース チャレンジとくしま芸術祭」。今回で4回目となるこの芸術祭は、去る1月22日から27日までの間、県立近代美術館を会場に、絵画、彫刻、工芸、陶芸、書道、写真などの「展示部門」と、音楽、朗読、ダンス、芸能などの「パフォーマンス部門」の二部門で開催されました。出品・出演されたのは、公募と抽選で選ばれた徳島県出身または在住の皆さん。年齢も経験も問わず、事前の審査もないことから、老若男女、初心者からプロ級までの才能豊かでユニークなアーティストたちが集まりました。

展示部門は約5mの壁面、パフォーマンス部門は15分以内、という条件でグランプリを巡って競いあい、厳正な審査を経た結果、受賞者が決定。そして、このたび受賞者の皆さんによる「受賞者発表会」を開催します。

賞の種類

グランプリ [部門ごとに各1組]

挑戦の度合い、表現の質の高さ、将来性、完成度などの総合力をもっとも認められるもの

準グランプリ [部門ごとに各1組]

グランプリに次ぐもの

チャレンジ奨励賞 ※該当者のある場合のみ

[展示部門は3組まで、パフォーマンス部門は2組まで]

将来性・チャレンジ精神において特に優れていると認められるもの

MIP (モーストインプレッションプレイヤー) 賞

[部門ごとに各1組] ※該当者のある場合のみ

最も印象に残ったと認められるもの

展示部門

平成25年1月22日(火)～27日(日)
徳島県立近代美術館展示室3

パフォーマンス部門

平成25年1月26日(土)
徳島県立近代美術館ロビー

表彰式

平成25年1月27日(日) 15:00～
徳島県立近代美術館ロビー

参加者数

「展示部門」39組(応募数45組)
「パフォーマンス部門」18組(応募数21組)

※参加者説明会・公開抽選会(平成24年11月4日)において、抽選により決定。

展示部門
グランプリ

あかまつみお(絵)

初参加。女子の身近な事物に対する視点を紡ぎ上げた作品が目立つこの展示会の中でも、高得点を獲得してのグランプリ受賞。

[受賞理由]
ダンボールという素材と日常の暖かみが素直に結びついていて、広く好感が持てる作風であり、安定感が各委員より評価された。



ソココ 2012年 段ボールにらくがき

★ 準グランプリ

石田里菜(書道)

初参加。作品に挑む気持ちとタイトルが一致した書道の大作でした。

[受賞理由]
初挑戦の不安を感じながらも、前向きに大作に挑む心情が伝わる表現であることを評価した。



heart 2012年 書道



四国大学 書道クラブ

四国大学 書道クラブ (書道パフォーマンス)

初参加。パフォーマンスによって書かれた巨大な書道作品だけでなく、一連の所作まで含めて評価されてのグランプリ受賞でした。

[受賞理由]
書道のパフォーマンスだけでなく地元の良さを伝えようという心意気が伝わった。本番に向けての練習の蓄積がうかがえるパフォーマンスの躍動感、迫力が圧倒的であった。

★ 準グランプリ

上勝シスターズ(踊り)

初参加。この演目は県内各地で披露しているものです。米作りを阿波踊りを使って表現していたことが印象的でした。

[受賞理由] 棚田の米作りの一年間を大変うまく構成していた。ラストまでパフォーマンスのテンションを維持できており、飽きさせなかった。出演者たちが心底たのしそうに演じていたことで、場をなごませてくれた。



上勝シスターズ こめこめ踊り

◆チャレンジ奨励賞

Hiro.(絵画)

初参加。この展示会の出品作の中では貴重な油絵作品でした。

[受賞理由]
油絵具の力を感じる正当派絵画の魅力の評価した。



びっくり箱 2012年 油彩、Canvas.

◆チャレンジ奨励賞

熊野世璃菜(絵画(デザイン))

初参加。会場内でも目をひく大きな作品でした。

[受賞理由]
課題も多いが大作に挑んだ勇気を評価した。



誕生 2013年 ペニヤ板にアクリル

展示部門

2013年3月16日[土]、17日[日]

審査員(順不同・敬称略)

鈴木 久人(鳴門教育大学教授)
白井 宏治(株式会社あわわ総務部部长)
河原崎貴光(徳島大学准教授)
森山 宏昭(徳島県立近代美術館長)*審査委員長
安達 一樹(徳島県立近代美術館上席学芸員)



白圭 組曲「惑星」木星より他

◆チャレンジ奨励賞

白圭(ウィッスル)

初参加。珍しいアイルランドのウィッスルという楽器を用いた演奏を披露してくれました。

[受賞理由]
パッケージとしての作り込みが丁寧で、プログラムとしての完成度が高かった。元々はサクソプレーヤーだった演者がウィッスルにチャレンジしたことを評価した。

◆チャレンジ奨励賞

チョコレートたると(ギター音楽と朗読のコラボ)

2年連続の参加。宮沢賢治の作品世界を独自に表現していました。

[受賞理由]
昨年に比べてパフォーマンスがグレードアップした。安定感があった。



チョコレートたると Kenji

◆チャレンジ奨励賞

ひらたるん(絵画)

自ら認めるくじ運の強さで4年連続での参加。初めての奨励賞受賞です。

[受賞理由]
5メートルの幅をうまく使って自分に適した表現を行っていたことを評価した。



迷走の街 2012年 紙、ペン、その他

◇MIP賞

蓮花くらぶ

(絵画と紙のコラボレーション)

メンバーの尾田さんは過去2回個人で参加。グループで参加した今回、見事MIP賞受賞。

[受賞理由]
問答無用のインプレッションがあった。



パワースポット 2012年 紙、絵画、造形

パフォーマンス部門

2013年3月17日[日]

審査員(順不同・敬称略)

小西 昌幸(北島町教育委員会事務局長)
遊道 久代(フリーアナウンサー)
武市 典子(株式会社メディコム SALALA編集長)
福田 典彦(フクタクレコード専務取締役)
細井 久雄(文化の森統括本部長・徳島県立二十一世紀館長)*審査委員長



エピキュリアン echo

◇MIP賞

エピキュリアン(ダンス)

初参加。グループ名は「享楽主義者」とのこと。大勢の小学生による元気の良いダンスでした。

[受賞理由]ダンスだけでなく現代社会に対するメッセージを込めたことが印象に残っている。また、ダンスの初心者たちがわずか2ヶ月で本番に出演するというチャレンジを評価した。

受賞者・受賞作品の ご紹介

受賞者発表会ではさらにパワーアップした受賞者の作品をお楽しみいただけます。